

平成28年度 農林部 方針書

農林部長 佐藤誠悦

1. 部の使命（役割）

・地域の特性を生かした持続可能な横手市農林業の構築

2. 平成28年度における課題（前年度の振り返りから）

1. 国からの米の生産数量目標配分廃止を見据えた、米政策への対応及び水田活用策
2. 横手市農産物のブランド化確立にむけた取り組みの推進
3. 果樹の雪害・風害復旧対策と防災型果樹産地の形成

3. 平成28年度の『スローガン』

“まえをみる”

・シンプルに考える。・情報量の差がものをいう。・専門家を使う。・自分のネットワークを十分活用する。

4. 年度目標となる方針（目標）

- ・持続可能な地域農業づくり
- ・担い手の確保・育成と農業所得確保への誘導（6次産業化の推進含む）
- ・TPP農業分野対策への対応
- ・横手市農産物のブランド化確立に向けた取り組みの推進
- ・生産力強化に向けた基盤の整備推進と多面的機能の発揮

5. 重点取組項目

| | | |
|-----|------|---|
| (1) | 項目 | ・持続可能な地域農業づくり |
| | 取組内容 | ・米政策の転換に即応できるよう積極的に情報収集するとともに、農業者等への発信を確実に行う。 ・果樹の雪害・風害復旧対策の実施と今後の収穫増につながる強靱化対策の実施 ・TPP農業分野対策への対応 ・農地利用集積の推進 |
| (2) | 項目 | ・よこて農業創生大学事業の実施 |
| | 取組内容 | ・実験農場における用地取得および研修交流棟、育苗ハウス等の新築、研修体制の整備 ・栽培実証施設、就農者育成施設、6次化支援、交流機能施設等の整備計画検討 |
| (3) | 項目 | ・生産力強化に向けた基盤の整備推進と多面的機能の推進 |
| | 取組内容 | ・大区画化の推進による生産性向上の基盤づくり ・Jクレジットを活用した環境活動の推進 ・路網整備による森林施業と環境保全の効率化 ・多面的機能支払交付金制度活用面積の拡大 |

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

- ・米政策転換にかかる情報収集と農家への発信について、国・県からの情報が少なく苦慮しているが、現段階での市の意見は表明している。
- ・農用地利用集積については、5月末に国から示された一方的な制度変更（減額）により、準備していた農家が集積をあきらめたりしたことで、予定集積面積を大きく下回っている。
- ・よこて農業創生大学事業の事業修正により、設計内容とスケジュールを変更した。
- ・Jクレジットを活用した環境活動は、順調に推移している。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

- ・米政策、TPP農業分野への対応については、引き続き情報収集に努めながら、整理された段階で、できるだけ早く農家に告知できるよう関係機関と協力していく。
- ・よこて農業創生大学事業の今年度の修正スケジュールについて、JA等と調整しながら実施し、平成29年度につなげる。
- ・今年度中の国の事業制度変更が他にも予想されるため、その際の農家説明に万全を期する。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

(1)持続可能な地域農業づくり

- ・(米政策) 平成30年産以降の米政策について、国・県からの情報収集に努めてきた。引き続き市再生協での協議を進めていく。
- ・(果樹) 今年度から強靱化対策事業に防風設備対策を追加するとともに、支柱の要件緩和を図ったことにより、事業実施者が昨年度より増加、引き続き支援を行っていく。
- ・(TPP) TPP農業分野へは、国が新たな経済連携協定も模索していることから、引き続き情報収集に努めていく。
- ・(農地集積) 農地中間管理事業により581.79ha(前年比77.24%増)が受け手農家へ集積された。

(2)よこて農業創生大学事業の実施

- ・実験農場における用地取得、新管理棟1棟、研修実証ハウス2棟の整備完了。研修体制については、指導員等の確保により充実したカリキュラム編成ができた。
- ・「6次産業化支援施設活用計画」を策定した。来年度は、学校給食への加工品提供に向けた試作に取り組んでいく。
- ・旧大雄中における整備基本設計、解体実施設計等は完了。ただしアスベスト除去工事が必要になったことから当初計画の日程にできるだけ遅れないよう取り組んでいく。

(3)生産力強化に向けた基盤の整備推進と多面的機能の推進

- ・(大区画化) 国の二次補正等により、計画より早く大区画化が進展した。
- ・(Jクレジット) 予定を大幅に上回る241tを販売できた。東北地域カーボンオフセットグランプリ最優秀賞を受賞、今後も活動を広げていく。
- ・(路網整備) 計画通りの実績があがった。来年度から林道橋の点検診断を実施し、再整備に向け準備を進めていく。
- ・(多面的) 認定面積11,753ha(154haの増)カバー率70%(中山間含み)を達成できた。今後は組織の広域化による体質強化と空白地の取り込みを推進していく。